

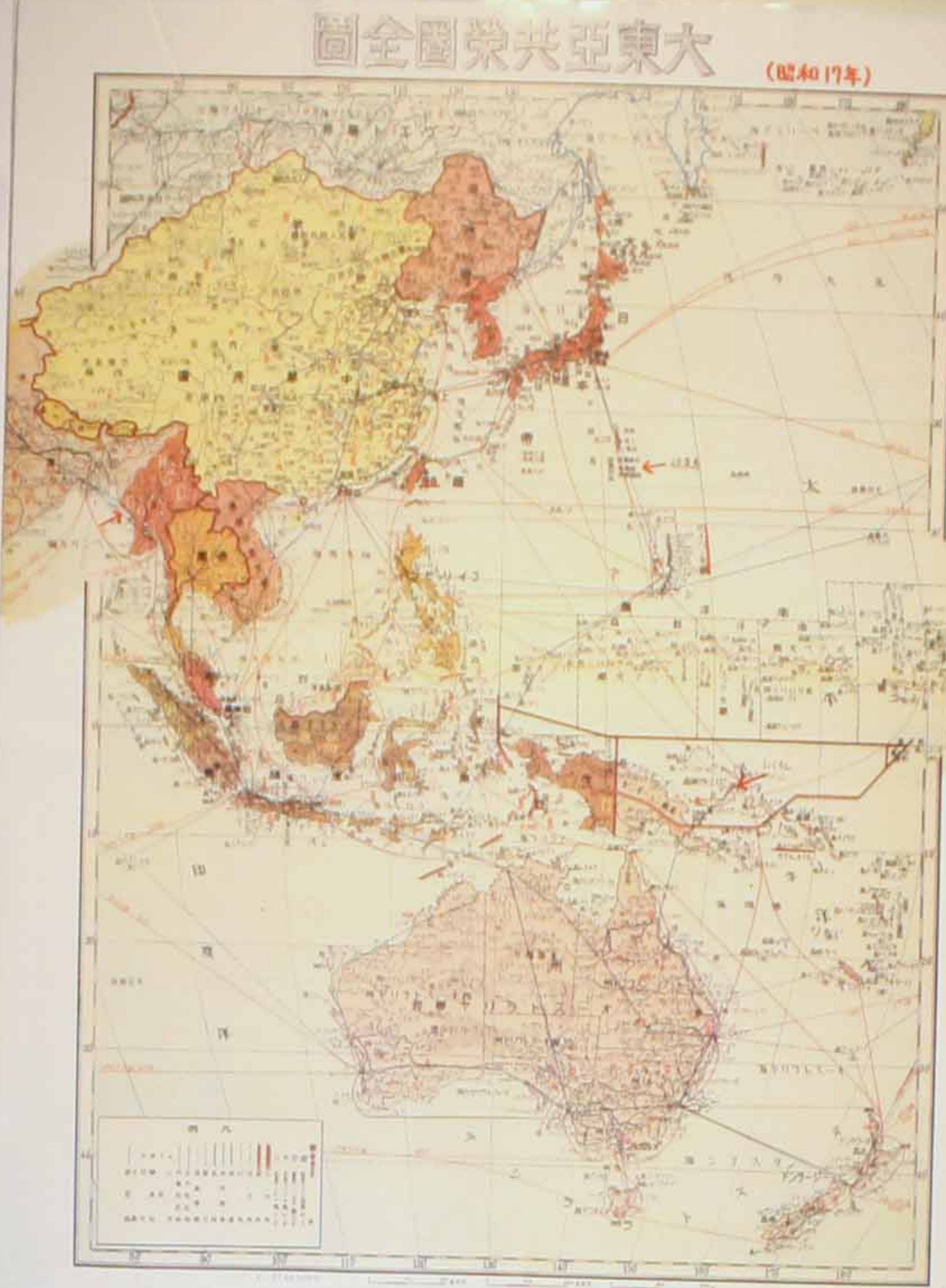
満州事変と日中戦争

昭和6年(1931)9月、関東軍(遼東半島の関東州の守備隊)は奉天(現瀋陽市)北側の柳条湖で南満州鉄道の線路を爆破し、中国軍が行ったと宣伝した。関東軍は線路爆破の報復措置として中国軍と戦闘を行い、5ヶ月で中国東北地方を占領し、昭和7年(1932)3月、満州国を建国した。

満州国の建国は国際的にも非難され、また中国国内においても反日運動を激化させた。昭和12年(1937)7月、北京郊外の盧溝橋で日中両軍が衝突(日支事変)。8月には中国軍が上海市内の日本租界を攻撃したため、在留日本人保護を名目に陸軍と海軍陸戦隊が参戦した(上海事変)。こうして昭和20年に日本が敗戦するまで続く中国との全面戦争が始まった。

昭和14年(1939)5月、満州国とモンゴル人民共和国が国境線を巡る軍事衝突「ノモンハン事件」が起こった。これは両国の後ろ盾である日本とソビエト連邦(現ロシア)との戦争で、9月に停戦合意するまで多くの日本兵が犠牲となった。

築上町出征兵士の手紙には、「部隊付少佐が戦死し、中隊長は負傷、現役ばかりの関東軍なれば…苦しい戦闘を続けております。」「今や満ソ国境も白雪に覆われました。目前にはソ連が堅固な構えを一段と固めています。」とある。



戦友たちと



現地の人々と 服装から中国大陆での写真か。



湖口演習場廠舎 台湾の新竹県「湖口郷」



満州國の国境警備 冬の寒さは大変厳しかった。



中国大陆での軍事演習



木銃剣訓練